

北見工業大学学報

第 220 号 (2007 年 3 月号)

目 次

学位記授与式	平成 18 年度学位記授与式を举行……………	3
告 辞	創造力を持った技術者を目指せ……………	4
入 試	大学院工学研究科(第 2 次)入学試験の実施……………	6
	入学試験の実施……………	7
研究助成	平成 18 年度共同研究の受入状況……………	8
	平成 18 年度受託研究の受入状況……………	8
	平成 18 年度奨学寄附金受入状況……………	8
	平成 19 年度共同研究の受入状況……………	9
	平成 19 年度受託研究の受入状況……………	9
	平成 19 年度奨学寄附金受入状況……………	9
人 事	人事異動……………	10
	新任者紹介……………	13
	各種委員会委員等	
	役員会/経営協議会/教育研究評議会/企画運営会議/学長補佐……………	16
	学科長・講座主任/専攻主任/広報委員会/国際交流委員会/施設環境委員会……………	17
	教務委員会/入学者選抜委員会/学生委員会/図書館委員会/地域連携推進委員会……………	18
	情報システム運営委員会/安全衛生委員会/大学評価委員会……………	19
	地域共創研究センター兼任教員/機器分析センター兼任教員/未利用エネルギー研究センター兼任教員 /情報処理センター兼任教員/サライ・バンチャビジ奴・ボラリ兼任教員……………	20
	クラス担任……………	21
国際交流	「外国人留学生スキー研修」を実施……………	22
	外国人留学生研修旅行を実施……………	23
	2007 年「留学生交流の夕べ」を開催……………	24

諸	報	「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン」事業開始……………	25
		学長主催特別講演会を開催……………	26
		生まれ変わった1号館校舎等……………	27
		現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）	
		「ITによる地域活性化教育支援システム」成果報告会を開催……………	29
		地域共同研究センターに(独)科学技術振興機構(JST)	
		研究成果活用プラザ北海道「医食ゲノミクス研究室・北見分室」設置……………	30
		道内初の格付評価で「AA」の評価を受ける……………	31
日	誌	2月・3月……………	32

= 学位記授与式 =

平成 18 年度学位記授与式を挙

(総務課)

平成 18 年度学位記授与式が、3 月 16 日 (金) 午前 10 時から北見市民会館大ホールで行われました。

学部 369 人の卒業生、大学院博士前期課程 94 人及び大学院博士後期課程 8 人の修了生及び論文博士 5 人に対し、常本学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、神田北見市長及び澤野学生後援会会長からの祝辞の後、卒業生を代表して機能材料工学科 對馬慎也さんが、「本学で学んだ知識、経験を生かし、常に自己研鑽への努力を惜しまず、一歩ずつ進んで参りたい」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。

卒業生、修了者数等は、次のとおりです。

学部

学 科 名	卒業生数(人)
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	79
電 気 電 子 工 学 科	62
情 報 シ ス テ ム 工 学 科	58
化 学 シ ス テ ム 工 学 科	57
機 能 材 料 工 学 科	47
土 木 開 発 工 学 科	66
合 計	369



常本学長より学位記授与

大学院博士前期課程

専 攻 名	卒業生数(人)
機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻	24
電 気 電 子 工 学 専 攻	13
情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	10
化 学 シ ス テ ム 工 学 専 攻	13
機 能 材 料 工 学 専 攻	18
土 木 開 発 工 学 専 攻	16
合 計	94

大学院博士後期課程

専 攻 名	卒業生数(人)
シ ス テ ム 工 学 専 攻	5
物 質 工 学 専 攻	3
合 計	8

論文博士 5 人

= 告辞 =

創造力を持った技術者を目指せ

学長 常本 秀幸



学部卒業ならびに大学院修了おめでとうございます。

今年は校舎の改修工事の関係で大学の講堂が利用できず、市民会館で学位記授与式を挙げる事になりました。大学を離れての卒業式で何かと不便をかける事になりましたが、良い面もあります。大学講堂ですと会場が狭いためには父母の方は別会場テレビを通してご覧いただくこととなりますが、本年度は父母の方にも同席いただき、皆さんの門出を一緒にお祝いすることができ大変喜んでおります。

最近、歳のせいがあるいは色々なことがあります。一年前のことがずいぶん以前のように思うことがあります。昨今の頃は北見市が近隣3町と合併して、広大な北見市になってお祝いをしておりまして、トリノオリンピックで北見出身のカーリング女子の活躍など、感動の余韻がまだ残っていた頃でもあります。夏から秋にかけては、駒大苫小牧高校の甲子園3連覇への挑戦、日本ハムファイターズの快進撃と、北海道が盛り

上がったのを覚えています。一方、秋口には大雨の被害、突然の竜巻被害、ガス漏れ事故など、北見地域が話題になることが多くありました。さらに、世界に目を向けると、この数年間は、イラク戦争を始め激動の21世紀初頭となり、明るい未来に不安を抱かせるような事件・事故があまりにも多く、私も心を痛めています。そんな中、皆さんは学業や研究に邁進し、本日、学位記授与式を迎えることができました。学士369人、修士94人、博士13人の方々に学位を授与いたしました。改めてお祝いを述べたいと思います。幸い、ここ2~3年、景気が回復し就職戦線は好調で、希望に添った企業選択もできたのではないかと思います。この売り手市場の傾向はしばらく続くと思われませんが、団塊の世代の退職者の補充、中国の好景気あるいは円安に支えられたものであって、日本の産業構造が次の時代に向かって変革した結果ではないことを記憶しておいてください。数年前の不景気な時代に企業が大学に求めていたのは、基礎学力があり、人間力、創造力を有する人材でした。これは今も変わっていません。今、企業が目指しているのは世界をリードする技術革新です。イノベーションという言葉が使われていますが、政府も「イノベーション25」という政策を掲げ、2025年までに日本の産業構造の変革を目指しており、特に、医療、情報、工学の技術革新に大きな期待を寄せています。従って、これから技術者となる皆さんへの期待も大きく、特に創造力を持った若い技術者が求められています。

昨年暮れに、本学で特別講演をいただきました。今話題のハイブリッド自動車を開発されたトヨタ自動車重役の八重樫さんとお話しをする機会がありました。八重樫さんは、21世紀の新しいエンジンシステムの構築に挑戦し、世界に先駆けハイブリッド車を商品化しており、正に自動車業界のイ

ノベーションを成し遂げた方だと言えます。私の驚きは、大容量のモーターが、常識を打ち破ったコンパクトなもので、さらにニッケル水素電池が車載できる性能になったことでした。開発当初は企業の技術力をアピールすることが狙いで、採算ベースになることを想定していなかったようです。ところが、今は自動車のCO₂規制の切り札として爆発的な人気車になり増産が続いています。まさに、努力とチームワークとそれに支えられた創造力によって作り出された傑作品だと思います。もちろんこのプロジェクトは、多くの若い技術者の創造力が成功を支えたと思いますが、それでも八重樫さんは若者の創造力の欠如を心配されておりました。学校教育に問題があるのではないかなど話をしましたが、私と一致した見解の一つが画像時代の影響でした。

数年前の話になりますが、私の息子が三国志が好きで本を集めていると聞いて、私も読んでみる気になり送ってもらいました。何と、漫画三国志全60巻でした。これでは出張などに持って出かけるわけにはいかないので、結局、吉川英治の単行本全8冊を読むことにしました。読んでみると人物像、服装、戦いや山々の光景などが目に浮かんできて時間を忘れてしまうくらいです。我々の時代はそれで十分満足できます。漫画ですと文字数は十分の一で、諸葛孔明、劉備玄德が具現化されていて面白いのですが、文字から創造する楽しみを奪っているように思えます。生活の周りの多くが画像化され便利になり、考えること、想像することをしないで済むようになっていきます。これでは、脳のバランスを崩し創造力の欠如につながるのではないかと心配しています。間違っても通勤電車の中で、漫画を見るようなサラリーマンにならないよう要望いたします。このように、「今の若者は」と若者への苦言を述べるようになると、一時代前の人類に分類されるようですが、創造力を

養うことは、皆さんの将来、日本の命運を分けることとなります。

話が長くなりましたが、もう一つお願いがあります。2年前から本学の後援会KITげんき会に同窓会から多大な支援を受けております。しかし、1万人を超す同窓会としては、まだまだ協力が得られると思っています。2010年には創立50周年記念を迎えます。色々な事業を考えていますので、同窓会そしてKITげんき会に入会し協力をお願いいたします。また、皆さんに大学の応援団になってもらうため、大学グッズを増やしました。この卒業式からハマナスティー、オホーツクビール、さらに「雪まりも」と言うお菓子を売り出しました。ハマナスティーとオホーツクビールは、本学教員と地域との連携で作られたものですので、本学のラベルを貼った限定品を作りました。ビール醸造は、ドイツで修行してきた機能材料工学科の先輩が担当しています。また、「雪まりも」は土木開発工学科の亀田先生が南極の-80℃近いところで発見し、「雪まりも」と命名した雪の塊を北見のお菓子屋さんがイメージに合ったクッキーにしてくれました。皆さんの実家、就職先などへのお土産に利用してもらい、本学の宣伝にも一役買っていただきたいと思います。

最後に、皆さんは今日多くの仲間と離れ離れになります。最近気になるのが、仲間との絆が薄れていることです。同じクラスの仲間の名前を知らない、就職先を知らないなど我々の年代では考えられません。将来、色々な場面で同窓の絆に助けられることもあります。大学時代に築き上げた仲間との絆を大切にしてください。そして、北見工業大学の学生であったことに誇りを持ち、自己研鑽に励みながら明るい夢のある未来を築かれんことを願い、告辞といたします。

= 入試 =

大学院工学研究科（第2次）入学試験の実施

（入 試 課）

平成19年度大学院工学研究科博士前期課程（第2次）入学試験が、2月6日（火）（学力検査）と7日（水）（面接試験）に実施されました。

また、平成19年度大学院工学研究科博士

後期課程（第2次）入学試験が、2月6日（火）（面接試験のみ）に実施されました。

各専攻別、各課程別の合格者数等は以下のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		一般選抜		学部3年次学生 対象選抜		外国人留学生 特別選抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械システム工学専攻	8	7	0	0	0	0	0	0
電気電子工学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0
情報システム工学専攻	2	2	0	0	0	0	1	1
化学システム工学専攻	3	3	1	1	0	0	0	0
機能材料工学専攻	5	5	0	0	0	0	1	1
土木開発工学専攻	5	5	0	0	0	0	1	1
合 計	23	22	1	1	1	1	3	3

博士後期課程

専攻名	募集区分		一般選抜		社会人選抜		外国人留学生 選 抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
システム工学専攻	2	2	5	5	2	2	2	2
物質工学専攻	0	0	0	0	0	0	3	3
合 計	2	2	5	5	5	5	5	5

入学試験の実施

(入 試 課)

本学の平成19年度学生募集に対して、1月29日(月)から2月6日(火)までの受付期間に前期日程776人、後期日程1,688人の出願がありました。

前期日程は3月6日(火)に合格者を発表し、

後期日程は3月20日(火)に合格者を発表しました。

今年度の入試実施結果は、次のとおりです。

前期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械システム工学科	35	98	66
電気電子工学科	40	126	119
情報システム工学科	25	123	40
化学システム工学科	30	219	119
機能材料工学科	18	49	49
土木開発工学科	32	161	116
合 計	180	776	509

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械システム工学科	30	368	31
電気電子工学科	28	315	38
情報システム工学科	25	283	45
化学システム工学科	14	316	28
機能材料工学科	22	158	30
土木開発工学科	32	248	52
合 計	151	1,688	224

推薦入学

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械システム工学科	15	41	24
電気電子工学科	12	17	16
情報システム工学科	10	22	16
化学システム工学科	16	18	17
機能材料工学科	10	12	12
土木開発工学科	16	17	16
合 計	79	127	101

= 研究助成 =

平成18年度共同研究の受入状況

平成19年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
化学システム工学科	教授	堀内 淳一	水熱処理を用いた北海道産バイオマスの加水分解特性とその生物学的利用	(社)北見工業技術センター運営協会
化学システム工学科	教授	吉田 孝	北海道のセルロース系農産資源の亜臨界水分解によるバイオエタノール製造の調査	(社)北見工業技術センター運営協会
国際交流センター	教授	山岸 喬	伝統医学とバイオメディカル技術による生活改善食品の開発 (変更契約)	独立行政法人科学技術振興機構
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	芝のり面の凍上挙動と被害対策 (変更契約)	網走地方芝生販売協同組合

平成18年度累計 91件

平成18年度受託研究の受入状況

平成19年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
電気電子工学科	助教授	武山 真弓	ZrB2ターゲットを用いたZrB2スパッタ膜の成膜及び評価	(株)アルバック半導体技術研究所	2,100,000
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	溶融固化物の寒冷地用途に関する挙動研究	社団法人日本産業機械工業会	1,890,000

平成18年度累計 19件

平成18年度奨学寄附金受入状況

平成19年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
国際交流センター	教授	山岸 喬	工学研究	小太郎漢方製薬株式会社	400,000
情報処理センター	講師	寄高 秀洋	工学研究のため (含情報処理センター業務)	寄高 秀洋	75,000
土木開発工学科	教授	山下 聡	工学研究のため	有限会社シー・エス・プランニング	650,000
機械システム工学科	助教授	三木 康臣	解体木材チップを原料としたペレットに関する研究	三基開発株式会社	23,000
機能材料工学科	教授	青木 清	Nb-Ti-Ni水素透過合金開発のため	新日本石油株式会社	500,000
土木開発工学科	教授	前田 寛之	国土交通省「地域における中小・中堅建設業の新分野進出定着促進モデル構築支援事業」貝殻石灰、ゼオライト岩及びバイオマスチップを利用した水質浄化システムの構築と自然養鶏事業への参入の研究協力のため	株式会社池知建設	500,000
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	工学研究のため	株式会社ドーコン	300,000
土木開発工学科	助教授	伊藤 陽司	地すべり地形写真判読及び資料作成	株式会社 中神土木設計事務所	300,000
土木開発工学科	助教授	後藤 隆司	岩石強度研究のため	株式会社 中神土木設計事務所	150,000
	学長	常本 秀幸	研究者の交流支援及び大学広報等への支援	北見工業大学後援会「KITげんき会」	4,198,402

平成18年度累計 77件

平成19年度共同研究の受入状況

平成19年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	凍結作用を受ける芝のり面における多機能フィルターの補強効果	多機能フィルター(株)
化学システム工学科	准教授	山田 哲夫	建築廃材中の繊維状物質の簡易定量	(株)環境リサーチ
国際交流センター	教授	山岸 喬	アイヌ薬用植物の調査研究	(株)ノエビア
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	SPEC製土壌硬化剤による不良土の改善に関する研究	(株)S P E C
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	低温環境を利用した海跡湖底泥の脱水改善に関する研究	島田建設(株)
国際交流センター	教授	山岸 喬	サンゴの高機能性化の研究	(株)健康水素協会
機能材料工学科	准教授	伊藤 英信	生体由来炭酸カルシウムの機能性に関する研究 ライムケーキの有効利用に関する研究	日本天然素材(株)オ ホーツク網走工場
機能材料工学科	教授	青木 清	液体急冷プロセスを利用したNb-Ti-Ni系複相水素透過膜の開発	三菱マテリアル(株)加 工事業カンパニー
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	碍子の塩分付着特性に関する研究	東北電力(株)研究開発 センター
機械システム工学科	准教授	三木 康臣	光透過型太陽電池を組み込んだ空気式ハイブリッドソーラーパネルに関する研究	(株)カネカ
機械システム工学科	准教授	三木 康臣	空気式および液式ハイブリッドタイプソーラーパネル等の性能向上に関する研究	矢崎総業(株)環境シス テム開発センター
化学システム工学科	教授	青山 政和	北海道産森林植物、菌類資源の食品機能性に関する研究	(株)ハクジュ・ライフ サイエンス
土木開発工学科	教授	鮎田 耕一	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業(株)化学 品事業本部
機能材料工学科	教授	増田 弦	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町役場
機能材料工学科	教授	高橋信夫	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町役場
化学システム工学科	准教授	伊藤 純一	常呂川水系におけるゴルフ場開発の下流水産資源への影響に関する研究	北海道漁業環境保全 対策本部
機能材料工学科	教授	高橋 信夫	北海道ガス(株)が道央圏で供給する天然ガスのハイドレート化に関する基礎的研究	北海道ガス(株)技術開 発研究所

平成19年度累計 17件

平成19年度受託研究の受入状況

平成19年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
機能材料工学科	教授	青木 清	メンブレン合金の開発	(株)日本製鋼所	3,675,000
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	ZrB2ターゲットを用いたZrB2スパッタ膜の成膜及び評価	(株)アルバック半導体技術 研究所	0
機能材料工学科	教授	青木 清	水素安全利用等基盤技術開発事業 水素に関する共通基盤技術開発－ 国際共同研究 非Pd系水素透過合金の高機能化と 高信頼化に関する研究開発	(独)新エネルギー・ 産業技術総合開発機構	24,872,400
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	溶融固化物の寒冷地用途に関する 挙動研究	(社)日本産業機械工業会	0

平成19年度累計 4件

平成19年度奨学寄附金受入状況

平成19年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
機能材料工学科	教 授	青木 清	岩谷科学技術研究助成金	(財)岩谷直治記念財団	2,000,000

平成19年度累計 1件

=人事=

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
19. 3. 31	機械システム工学科教授	坂本 弘志	定年退職
〃	情報システム工学科教授	鈴木 茂人	定年退職
〃	土木開発工学科教授	森 訓保	定年退職
〃	土木開発工学科教授	海老江邦雄	定年退職
〃	土木開発工学科教授	内島 邦秀	定年退職
〃	教務課長	大倉 毅	定年退職
〃	化学システム工学科助手	斉藤 伸吾	辞職(埼玉大学へ転出)
〃	研究協力課長	深澤 渉	辞職(室蘭工業大学へ転出)
〃	情報図書課長	杉田 福夫	辞職(北海道大学へ転出)
〃	財務課副課長	佐藤 孝行	辞職(北海道大学へ転出)
〃	施設課環境保全係長	菅野 高利	辞職(北海道教育大学へ転出)
〃	技術部技術員	宮元 章匡	辞職(弘前大学へ転出)
19. 4. 1	情報システム工学科助教授	柴坂 俊雄	情報システム工学科教授
〃	情報システム工学科助教授	三浦 則明	情報システム工学科教授
〃	国土交通省国土技術政策総合研究所主任研究員	中山 恵介	土木開発工学科教授
〃	木更津工業高等専門学校機械工学科助手	林田 和宏	機械システム工学科准教授
〃		早川 吉彦	情報システム工学科准教授
〃	京都大学大学院工学研究科講師	永禮 英明	土木開発工学科准教授
〃		水本 正晴	共通講座准教授
〃		Jennifer Claro	共通講座講師
〃	機械システム工学科教務職員	高井 和紀	機械システム工学科助教
〃	総務企画課長	村上 力夫	総務課長
〃	総務企画課監査・評価室長 (学科事務室長兼務)	木村 有利	企画広報課長
〃	一関工業高等専門学校学生課長	大山 弘正	研究協力課長
〃	学生支援課長	長尾 義昭	学生支援課長
〃	北海道大学附属図書館情報サービス課課長補佐	山田 勉	情報図書課長

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
19. 4. 1	財務課副課長(経理室長兼務)	渡部 和幸	財務課経理室長
〃	研究協力課副課長 (国際交流推進室長兼務)	河合 隆	研究協力課国際交流推進室長
〃	教務課教育事業推進室長	迫田 斉	学生支援課教育企画推進室長
〃	総務企画課副課長(人事係長兼務)	斉藤 順	総務課副課長
〃	教務課副課長(教務係長兼務)	小野 勝巳	企画広報課副課長
〃	北海道大学財務部経理課経理係長	川上 豊	財務課副課長
〃	研究協力課副課長	村井 伸夫	研究協力課副課長(研究協力係長兼務)
〃	学生支援課副課長 (就職支援係長兼務)	斉藤 仁史	学生支援課副課長
〃	学生支援課生活支援係長	小野 恵子	学生支援課副課長(就職支援係長兼務)
〃	総務企画課総務・企画係長	藤田美代子	総務課総務係長
〃	総務企画課秘書係長	吉田 敏恵	総務課秘書係長
〃	総務企画課人事係主任	菊池 一修	総務課人事係長
〃	総務企画課学科事務室学科事務 第一係長	美村 薫	総務課学科事務第一係長
〃	総務企画課学科事務室学科事務 第二係長	伊藤 孝子	総務課学科事務第二係長
〃	総務企画課監査・評価室監査係長	松沼 拓夫	企画広報課企画係長
〃	総務企画課監査・評価室評価係長	栄浪 晋也	企画広報課評価係長
〃	総務企画課広報・法規係長	森本 典宏	企画広報課広報係長
〃	旭川工業高等専門学校会計課 施設係企画主任	早瀬 敦	施設課環境保全係長
〃	研究協力課研究協力係長	渡部 孝弘	学生支援課教務係長
〃	教務課修学指導係長	田卷美江子	学生支援課修学指導係長
〃	学生支援課専門職員	高橋 定志	学生支援課生活支援係長
〃	教務課教育事業推進室大学院・教育 推進係長	斉藤 靖子	学生支援課教育企画推進室大学院・ 教育企画推進係長
〃	総務企画課人事係主任	小林 則子	総務課人事係主任
〃	財務課予算係	八木澤 学	財務課経理室経理係主任
〃	研究協力課国際交流推進室 国際交流係	二村 肇	研究協力課研究協力係主任
〃	総務企画課総務・企画係	白鳥 喜裕	総務課総務係
〃	総務企画課人事係	西尾 貴則	総務課人事係
〃	総務企画課総務・企画係	田畑 潤司	企画広報課企画係
〃	総務企画課監査・評価室評価係	高橋亜喜子	企画広報課評価係

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
19. 4. 1	施設課施設管理係	三宮 智仁	財務課予算係
〃	財務課経理室経理係	福崎 隼人	施設課施設企画係
〃	施設課施設企画係	上野 祐輔	施設課安全管理係
〃	教務課教務係	藤本みちえ	学生支援課教務係
〃	教務課修学指導係	原 勇介	学生支援課修学指導係

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
19. 4. 1	技術部第四係長	小畑 芳弘	技術部副技術長(共通支援担当)
〃	技術部第一係長	平松 雅宏	技術部副技術長(教育研究担当)
〃	技術部技術専門職員	森脇 幸伸	技術部第一係長(技術専門職員兼務)
〃	技術部第四係	遠国 秀昭	技術部技術専門職員
〃	技術部第六係	布川 裕	技術部技術専門職員
〃	技術部技術専門職員	堂田 誠治	技術部第三係長(技術専門職員兼務)
〃	技術部第三係長	中西喜美雄	技術部第四係長
〃	技術部第三係	大森 清一	技術部技術専門職員
〃	技術部第三係	杉野 豪	技術部技術専門職員
〃	技術部第二係	橋本 晴美	技術部技術専門職員
〃	技術部第六係	山田 洋文	技術部技術専門職員
〃	技術部第六係	石澤 真也	技術部第三係
〃	技術部第一係	宇野 珠実	技術部第五係

新 任 者 紹 介

(総務課)

○土木開発工学科教授に なかやまけいすけ 中山 恵介 氏

昭43. 12. 8生
平 6. 3 北海道大学大学院工学研究科博士前期課程修了
10. 12 博士(工学)(京都大学)
平 7. 4 北海道大学工学部助手
9. 4 北海道大学大学院工学研究科助手
11. 10 運輸省港湾技術研究所研究官
13. 1 国土交通省国土技術政策総合研究所主任研究官
19. 4 北見工業大学工学部土木開発工学科教授

○機械システム工学科准教授に はやしだかずひろ 林田 和宏 氏

昭50. 1. 12生
平15. 3 群馬大学大学院工学研究科博士後期課程修了
15. 3 博士(工学)(群馬大学)
15. 4 木更津工業高等専門学校機械工学科助手
19. 4 北見工業大学工学部機械システム工学科准教授

○情報システム工学科准教授に はやかわよしひこ 早川 吉彦 氏

昭33. 6. 13生
昭58. 3 立教大学大学院理学研究科博士前期課程修了
平 6. 7 博士(歯学)(東京歯科大学)
昭58. 4 東京歯科大学助手
62. 10 東京歯科大学講師
平19. 4 北見工業大学工学部情報システム工学科准教授

○土木開発工学科准教授に ながれひであき 永禮 英明 氏

昭43. 8. 15生
平13. 3 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了
13. 3 博士(工学)(京都大学)
5. 4 株式会社日立製作所
13. 4 科学技術振興事業団CREST研究員
14. 10 京都大学大学院工学研究科助手
15. 10 京都大学大学院工学研究科講師
19. 4 北見工業大学工学部土木開発工学科准教授

○共通講座准教授に みずもとまさはる 水本 正晴 氏

昭43. 9. 21生
平10. 3 一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了
16. 11 博士(社会学)(一橋大学)
6. 4 コニカ株式会社
14. 4 日本学術振興会特別研究員
19. 4 北見工業大学工学部共通講座准教授

○共通講座講師に ^{ジェニファー クラロ} Jennifer Claro 氏

1965. 10. 15 生
1991. 5 セントメアリー大学大学院修了
1991. 5 TESL 修士号
1992. 9 ブリティッシュコロロンビア大学教育助手
1993. 4 熊本市立総合ビジネス専門学校英語講師
1995. 4 熊本学園大学英語講師
1999. 6 ラジャバット大学英語教師
2000. 4 学校法人尚綱学園尚綱大学講師
2007. 4 北見工業大学工学部共通講座講師

○研究協力課長に ^{おおやまこうせい} 大山 弘正 氏

昭35. 1. 1 生
61. 1 東北大学法学部
平 2. 7 秋田大学鉱山学部
5. 4 秋田大学入学主幹付
8. 4 秋田大学経理部経理課
10. 4 秋田大学経理部主計課
11. 12 秋田大学医学部医事課専門職員
14. 4 秋田大学学務部学務課留学生係長
16. 4 秋田大学社会貢献・国際交流室留学生係長
17. 4 一関工業高等専門学校学生課長
19. 4 北見工業大学研究協力課長

○情報図書課長に ^{やまだつとむ} 山田 勉 氏

昭25. 8. 26 生
44. 4 北海道大学庶務部人事課
44. 6 北海道大学文学部
45. 6 北海道大学附属図書館閲覧課
50. 5 北海道大学工学部
52. 4 北海道大学工学部総務課
53. 5 北海道大学経済学部
58. 5 北海道大学大学院環境科学研究科
63. 4 北海道大学医学部
平 5. 4 北海道大学理学部
8. 4 小樽商科大学附属図書館運用係長
11. 4 北海道大学附属図書館情報サービス課資料サービス掛長
15. 4 北海道大学理学研究科・理学部図書掛長
17. 4 北海道大学附属図書館情報サービス課課長補佐
19. 4 北見工業大学情報図書課長

○財務課副課長に かわかみゆたか 川上 豊 氏

昭34. 6. 12生
53. 5 苫小牧工業高等専門学校庶務課
58. 4 苫小牧工業高等専門学校会計課
59. 4 苫小牧工業高等専門学校庶務課
63. 4 北海道大学工学部
平 2. 1 1 北海道大学経理部経理課
8. 4 北海道大学農学部
11. 4 北海道大学経理部第一契約課付
12. 4 苫小牧工業高等専門学校会計課用度係長
15. 4 北海道大学触媒化学研究センター総務掛長
16. 4 北海道大学北キャンパス合同事務部経理掛長
18. 4 北海道大学財務部経理課経理係長
19. 4 北見工業大学財務課副課長

○施設課環境安全係長に はやせあつし 早瀬 敦 氏

昭37. 4. 7生
昭59. 5 東京大学理学部
7. 4 旭川医科大学業務部施設課
11. 4 旭川工業高等専門学校会計課

各種委員会委員等

(総務課)

役員会／経営協議会／教育研究評議会／企画運営会議／学長補佐

	役員会	経営協議会	教育研究評議会	企画運営会議	学長補佐
議長	学長 常本秀幸	学長 常本秀幸	学長 常本秀幸	学長 常本秀幸	財務・労務担当 鮎田耕一
委員	理事・副学長（総務・研究担当） 大島俊之	理事 大島俊之	理事 大島俊之	理事 大島俊之	教務・入試担当 高橋信夫
	理事・副学長（教務・学生担当） 小林道明	理事 小林道明	理事 小林道明	理事 小林道明	評価担当 佐々木克孝
	理事・非常勤（産学連携担当） 白井達郎	副学長（情報・国際担当） 田村淳二	副学長（情報・国際担当） 田村淳二	副学長（情報・国際担当） 田村淳二	地域連携担当 鈴木輝之
		副学長（評価・広報担当） 田牧純一	副学長（評価・広報担当） 田牧純一	副学長（評価・広報担当） 田牧純一	
		事務局長 山田泰二	機械システム工学科長 富士明良	事務局長 山田泰二	
		放送大学長 丹保憲仁	電気電子工学科長 吉田公策		
		国立大学法人信州大学監事 梶谷誠	情報システム工学科長 河野正晴		
		独立行政法人科学技術振興機構 研究成果活用799北海道館長 大味一夫	化学システム工学科長 堀内淳一		
		東京電波㈱代表取締役会長 熊谷秀男	機能材料工学科長 青木清		
		北見商工会議所会頭 ㈱中神土木設計事務所代表取締役 中神銃三郎	土木開発工学科長 鮎田耕一		
		㈱北辰工業取締役会長 越膳良臣	共通講座主任 照井日出喜		
			地域共同研究センター長 高橋修平		
			機器分析センター長 吉田孝		
			未利用エネルギー研究センター長 庄子仁		
			情報処理センター長 亀丸俊一		
			国際交流センター長 山岸喬		
			技術部長 羽二生博之		
			事務局長 山田泰二		
			機械システム工学科教授 佐々木正史		
			電気電子工学科教授 細矢良雄		
			情報システム工学科教授 藤原祥隆		
			化学システム工学科教授 青山政和		
			機能材料工学科教授 井上貞信		
			土木開発工学科教授 鈴木輝之		
			共通講座教授 金倉忠之		
任期	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31

学科長・講座主任／専攻主任／広報委員会／国際交流委員会／施設環境委員会

	学科長・講座主任	専攻主任	広報委員会	国際交流委員会	施設環境委員会
委員長			副学長(評価・広報担当) 田 牧 純 一	副学長(情報・国際担当) 田 村 淳 二	副学長(総務・研究担当) 大 島 俊 之
委員		博士前期課程	機械システム工学科 山 田 貴 延	国際交流センター長 山 岸 喬	地域共同研究センター長 高 橋 修 平
	機械システム工学科 富 士 明 良	機械システム工学専攻 富 士 明 良	電気電子工学科 細 矢 良 雄	国際交流センター専任教員 菅 野 亨	機器分析センター長 吉 田 孝
	電気電子工学科 吉 田 公 策	電気電子工学専攻 吉 田 公 策	情報システム工学科 榮 坂 俊 雄	〃 荒 谷 陽 子	未利用エネルギー研究センター長 庄 子 仁
	情報システム工学科 河 野 正 晴	情報システム工学専攻 河 野 正 晴	化学システム工学科 星 雅 之	機械システム工学科 三 戸 陽 一	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長 川 村 彰
	化学システム工学科 堀 内 淳 一	化学システム工学専攻 堀 内 淳 一	機能材料工学科 渡 邊 眞 次	電気電子工学科 柏 達 也	機械システム工学科 大 橋 鉄 也
	機能材料工学科 青 木 清	機能材料工学専攻 青 木 清	土木開発工学科 伊 藤 陽 司	情報システム工学科 榮 坂 俊 雄	電気電子工学科 垣 本 直 人
	土木開発工学科 鮎 田 耕 一	土木開発工学専攻 鮎 田 耕 一	共 通 講 座 鳴 島 史 之	化学システム工学科 兼 清 泰 正	情報システム工学科 榮 坂 俊 雄
	共 通 講 座 照 井 日 出 喜	各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜	地域共同研究センター長 鞘 師 守	機能材料工学科 佐 々 木 克 孝	化学システム工学科 伊 藤 好 二
			事務局長 山 田 泰 二	土木開発工学科 宮 森 保 紀	機能材料工学科 渡 邊 眞 次
		博士後期課程		共 通 講 座 波 澤 ッ ク ・ ク リ ス ト フ ァ ー ・ ジ ョ ン	土木開発工学科 高 橋 清
		システム工学専攻 河 野 正 晴		事務局長 山 田 泰 二	共 通 講 座 阿 曾 正 浩
		物質工学専攻 青 木 清			事務局長 山 田 泰 二
		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜			
任 期	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31

教務委員会／入学者選抜委員会／学生委員会／図書館委員会／地域連携推進委員会

	教 務 委 員 会	入 学 者 選 抜 委 員 会	学 生 委 員 会	図 書 館 委 員 会	地 域 連 携 推 進 委 員 会
委員長	副学長（教務・学生担当） 小林 道 明	副学長（教務・学生担当） 小林 道 明	副学長（教務・学生担当） 小林 道 明	図書館長 田 村 淳 二	副学長（教務・学生担当） 大 島 俊 之
委員	機械システム工学科 尾 崎 義 治	機械システム工学科 柴 野 純 一	機械システム工学科 菅 原 幸 夫	機械システム工学科 松 村 昌 典	副学長（教務・学生担当） 小 林 道 明
	電気電子工学科 谷 藤 忠 敏	電気電子工学科 谷 藤 忠 敏	電気電子工学科 平 山 浩 一	電気電子工学科 辻 寧 英	地域共同研究センター長 高 橋 修 平
	情報システム工学科 柴 田 孝 次	情報システム工学科 三 浦 則 明	情報システム工学科 後 藤 文 太 朗	情報システム工学科 鈴 木 範 男	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長 川 村 彰
	化学システム工学科 青 山 政 和	化学システム工学科 岡 崎 文 保	化学システム工学科 福 井 洋 之	化学システム工学科 山 田 哲 夫	知的財産本部長 鞘 師 守
	機能材料工学科 阿 部 良 夫	機能材料工学科 松 田 剛	機能材料工学科 射 水 雄 三	機能材料工学科 川 村 み どり	機械システム工学科 鈴 木 聡 一 郎
	土木開発工学科 鈴 木 輝 之	土木開発工学科 早 川 博	土木開発工学科 榎 本 浩 之	土木開発工学科 亀 田 貴 雄	電気電子工学科 村 田 年 昭
	共 通 講 座 土 橋 善 仁	共 通 講 座 山 田 健 二	共 通 講 座 福 士 航	共 通 講 座 平 野 温 美	情報システム工学科 原 田 康 浩
			国際交流センター長 山 岸 喬		化学システム工学科 多 田 旭 男
					機能材料工学科 増 田 弦
					土木開発工学科 三 上 修 一
					共 通 講 座 鈴 木 一 央
					事 務 局 長 山 田 泰 二
任 期	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	19. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31

情報システム運営委員会／安全衛生委員会／大学評価委員会

	情報システム運営委員会	安全衛生委員会	大学評価委員会
委員長	副学長（情報・国際担当） 田村 淳二	理事・副学長（総務・研究担当） 大島 俊之	学 長 常本 秀幸
委 員	情報処理センター長 亀丸 俊一	衛生管理者（技術部） 橋本 晴美	理事・副学長（総務・研究担当） 大島 俊之
	情報処理センター専任教員 升井 洋志	” 白川 和哉	副学長（評価・広報担当） 田牧 純一
	” 寄高 秀洋	産業医（保健管理センター） 本田 明	機械システム工学科 大橋 鉄也
	機械システム工学科 菅原 幸夫	電気電子工学科 菅原 宣義	電気電子工学科 吉田 公策
	電気電子工学科 熊耳 浩	化学システム工学科 星 雅之	情報システム工学科 藤原 祥隆
	情報システム工学科 三波 篤郎	機能材料工学科 渡邊 眞次	化学システム工学科 鈴木 勉
	化学システム工学科 三浦 宏一	” 伊藤 英信	機能材料工学科 増田 弦
	機能材料工学科 宇都 正幸	土木開発工学科 後藤 隆司	土木開発工学科 榎本 浩之
	土木開発工学科 早川 博	地域共同研究センター 有田 敏彦	共通講座 照井 日出喜
	共通講座 柳 等	学生支援課 渡部 孝弘	事務局長 山田 泰二
	事務局長 山田 泰二	技 術 部 山根美佐雄	
		” 中西喜美雄	
任 期	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31

地域共同研究センター兼任教員／機器分析センター兼任教員／機器分析センター兼任教員／未利用エネルギー研究センター兼任教員／
 情報処理センター兼任教員／サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー兼任教員

	地域共同研究センター兼任教員	機器分析センター兼任教員	未利用エネルギー研究センター兼任教員	情報処理センター兼任教員	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー兼任教員
委員長					
委員	機械システム工学科 佐々木正史	機械システム工学科 富士明良	機械システム工学科 佐々木正史	機械システム工学科 松村昌典	機械システム工学科 羽二生博之
	電気電子工学科 菅原宣義	電気電子工学科 野矢厚	化学システム工学科 鈴木勉	機械システム工学科 菅原幸夫	情報システム工学科 藤原祥隆
	情報システム工学科 藤原祥隆	情報システム工学科 三浦則明	化学システム工学科 岡崎文保	電気電子工学科 谷藤忠敏	〃 三波篤郎
	化学システム工学科 堀内淳一	化学システム工学科 三浦宏一	機能材料工学科 高橋信夫	電気電子工学科 熊耳浩	土木開発工学科 高橋清
	機能材料工学科 増田弦	機能材料工学科 増田弦	土木開発工学科 前田寛之	情報システム工学科 鈴木正清	国際交流センター 山岸喬
	機能材料工学科 宇都正幸	土木開発工学科 前田寛之	土木開発工学科 山下聡	情報システム工学科 酒井考和	
	土木開発工学科 佐渡公明	共通講座 柳等	機器分析センター 南尚嗣	化学システム工学科 岡崎文保	
	土木開発工学科 鈴木輝之			機能材料工学科 射水雄三	
	土木開発工学科 川村彰			土木開発工学科 早川博	
	共通講座 金倉忠之			土木開発工学科 三上修一	
任期	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31	18. 4. 1 ~ 20. 3. 31

クラス担任1～4年生

	クラス担任（1年）	クラス担任（2年）	クラス担任（3年）	クラス担任（4年）
	機械システム工学科 尾崎 義治	機械システム工学科 羽二生 博之	機械システム工学科 大橋 鉄也	機械システム工学科 富士 明良
	〃 松村 昌典	〃 三戸 陽一	〃 鈴木 聡一郎	〃 佐々木 正史
	電気電子工学科 村田 年昭	電気電子工学科 菅原 宣義	電気電子工学科 川村 武	電気電子工学科 垣本 直人
	〃 柏 達也	〃 辻 寧英	〃 武山 真弓	〃 谷本 洋
	情報システム工学科 後藤 文太郎	情報システム工学科 原田 建治	情報システム工学科 吉田 秀樹	情報システム工学科 中垣 淳
	〃 今井 正人	〃 渡辺 文彦	〃 鈴木 範男	〃 三波 篤郎
	化学システム工学科 中谷 久之	化学システム工学科 星 雅之	化学システム工学科 三浦 宏一	化学システム工学科 堀内 淳一
	機能材料工学科 川村 みどり	機能材料工学科 村田 美樹	機能材料工学科 石川 和宏	機能材料工学科 青木 清
	土木開発工学科 伊藤 陽司	土木開発工学科 宮森 保紀	土木開発工学科 前田 寛之	土木開発工学科 山下 聡
	〃 堀 彰	〃 八久保 晶弘	〃 後藤 隆司	〃 亀田 貴雄
任期	19. 4. 1 ~ 20. 3. 31	19. 4. 1 ~ 20. 3. 31	19. 4. 1 ~ 20. 3. 31	19. 4. 1 ~ 20. 3. 31

= 国際交流 =

「外国人留学生スキー研修」を実施

(研究協力課)

1月12日(木)、北見の寒さを吹き飛ばそうと、今年も端野町のメビウススキー場で「外国人留学生スキー研修」を実施しました。

今までスキーを経験したことのない留学生も多い中、42人が能力別に3グループに分かれ3人の指導員の基本レッスンを受けました。

晴天と最高の雪質に恵まれ、ボランティアとして参加した日本人学生の助けもあり、昼

過ぎには全員がリフトに乗ってゲレンデをゆっくり滑走できるまでに上達しました。

留学生たちはすっかりスキーの魅力に取り付かれたようで、昼休みの時間も惜しみ、またレッスン終了後のフリー滑走の時間も、集合時間ぎりぎりまでゲレンデに残りスキーを楽しんでいました。



全員揃って準備運動



スキーを楽しむ留学生

外国人留学生研修旅行を実施

(研究協力課)

1月27日(土)外国人留学生研修旅行が実施され、網走市を中心に流氷や各施設を見学しました。

前日まで流氷が接近しておらず、流氷船オーロラに乗船してから今年の流氷初日のうれしいニュースを聞くことができました。初め

て流氷をみる新入生はもちろん、昨年、一昨年と流氷を体験することができなかった留学生も、その光景に感激の声をあげていました。

特にマレーシアなど暑い国から来た留学生にとって、北海道の雄大な自然は忘れられない思い出となったようです。

午後からはオホーツク流氷館を見学し、帰路につく途中、たまたま網走湖で開催されていたフェスティバルに立ち寄り、何度も氷の滑り台に挑戦して地元の子供達とスピードを競っていました。



←流氷を背景に記念撮影



集合写真

2007年「留学生交流の夕べ」を開催

(研究協力課)

3月6日(火)、本学コミュニケーションアトリウムにおいて、2007年「留学生交流の夕べ」が開催されました。当日は、外国人留学生、国際交流関係者、ホストファミリー及び本学関係者など約120名が参加しました。

常本学長からの挨拶に続いて、卒業・修了生代表による感謝の言葉があり、留学生には一人ひとりに学長から記念品が贈られました。

卒業パーティでは、ホストファミリーや支援団体の方々など、日頃から留学生がお世話になっている方々との懇談や、各国の留学生からのダンス、歌、演奏などのアトラクションが披露され、日本人学生も練習を重ねた剣劇に頑張ってくれるなど「留学生交流の夕べ」は、和やかな雰囲気うちに閉会しました。



留学生の卒業・修了生たち



民族舞踊で盛り上がる様子

＝ 諸報 ＝

「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」事業開始

(研究協力課)

平成 19 年 2 月 19 日に平成 18 年度(独)科学技術振興機構(JST)科学技術振興調整費事業として採択を受けた標記事業の開講式・オープニングセミナー・交流会を実施しました。(講義開始は 20 日より)

当プランは公共事業削減により業種転換を迫られている建設関係業界及び後継者不足に悩む農林水産業への支援を目的とし、オホーツクブランドの確立と、地域の特色である第一次産業の工業化(大規模化・精密化・差別化)を目指し、生産・管理・保存・製品化・マーケット開拓等の一貫した行程を学び、最終的にはこれら工学・農学双方の技術・知識を身につけた人材による起業化・事業化・後継者育成を図ろうというものです。初年度である今年の座学から始まり、次年度の実習を経て 2 年計画での人材育成事業で第一期生として 13 名が承認され

ました(最終的には 40 名の修了者を予定)。

開講式では、大島副学長の開講挨拶、高橋修平教授、山岸喬教授によるオリエンテーションが行われました。オープニングセミナーは公開で行われ、(株)ユニカフェ R&D センター長中村豊郎氏、地元水元建設(株)代表取締役社長水元尚也氏の先駆者としてのアドバイスをちりばめた講演が行われました。

引き続き交流会では、和やかな雰囲気の中で、受講者の自己紹介の後、本学関係者、学外講師陣(帯広畜産大学・東京農業大学・網走農業普及改良センター・道立北見農業試験場・道立オホーツク地域食品加工技術センター)によりそれぞれの当事業に対する決意が表明され、途中で出張から駆けつけた常本学長からは「大いなる成果を期待しています」とのエールが送られました。



大島副学長開講挨拶



開講式・セミナー風景



交流会風景



駆けつけた常本学長のエール

学長主催特別講演会を開催

(研究協力課)

去る2月27日(火)多目的講義室において、本学と日本化学会北海道支部の共催による特別講演会を開催しました。

今回は、明治大学理工学部の宮腰哲雄教授と本学国際交流センター長の山岸喬教授を講師としてお招きしました。

宮腰教授からは「漆の伝統技術の中にある化学」と題して、漆は、エネルギー有効利用の観点から重要な高分子材料であり、石油等の化学資源に依存しないことが見直されてきているとの話がされました。

また、山岸教授からは、「伝統医学とバイオメディカル技術によるヘルスサイエンス事業開拓」と題して、ハマナス、タマネギ、ホタテなど地場産品を使用した機能性食品の開発、製造技術、特許取得等現在事業化を進めている研究内容について講演を頂きました。

教職員・学生、一般市民など参加者は60名を超え、参加者からは質問も活発に出されるなど、意義のある講演会となりました。



講演する宮腰教授



講演する山岸教授

生まれ変わった1号館校舎等

(施設課)

昨年の6月から工事を進めていた「1号館」の改修工事が2月28日をもって完成しました。この「1号館」は昭和35年の開学当初からの建物で、老朽化、学科実験室の分散による教育研究の非効率化、学生支援部門等の分散化などにより学生サービスの低下を招いていました。本事業は、平成17年度(1期)に引き続き、教育研究環境の高度化を図り、合わせて安心安全な教育研究環境の確立を目指し計画、整備しました。

主な整備内容としては、暗かった中廊下 naturally採光を採り入れるためトップライトを各所に設け、明るい空間となるようにし、建物中庭は、夏期の憩いの場としてコミュニケーションが図れるよう樹木や芝、自然石のベンチ等を設けました。

また、建物内の段差は基準値の勾配以内とし、段差の前後には点字ブロック、壁には手すりを設置し、高齢者及び身体障害者等が円滑に利用できるように配慮しています。

建物外部は、外断熱を採用し、ファサードをガラス張りのカーテンウォールを連続して配することにより、軽快で端正な印象を与え、開放された

大学をアピールしております。

さらに車寄庇のトライアングル化粧ブレースは、本学のミッションを実現するため、教育、研究並びに社会貢献の三本柱を教員、職員並びに学生の三者が協力し推進していくことを表現しています。

昨年の10月から工事を進めていた図書館増改修工事の1期目についても3月9日をもって完成しました。本事業は、図書館と第一講義棟の融合、教育環境の高度化への推進、人材育成をとおして地域社会へ貢献するために計画されたものです。

今回はそのうちの一部が整備されたもので、主な整備内容としては、図書館正面玄関を正門側に移し、第一講義棟に繋ぐ形で改修、増築を行い、学生と地域住民等のふれあいの場となるコミュニケーションホールを設け、建物外部は、1号館正面のガラス張りのカーテンウォールと同質の素材感とプロポーションにより構成しました。

今後、図書館の残り部分及び第一講義棟の改修については、両施設を融合し地域の知の拠点として整備する計画を検討中です。



1号館外観



← 1号館 1階ホール



図書館外観→



←図書館 1階
コミュニケーションホール

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)「ITによる地域活性化教育支援システム」成果報告会を開催

(学生支援課)

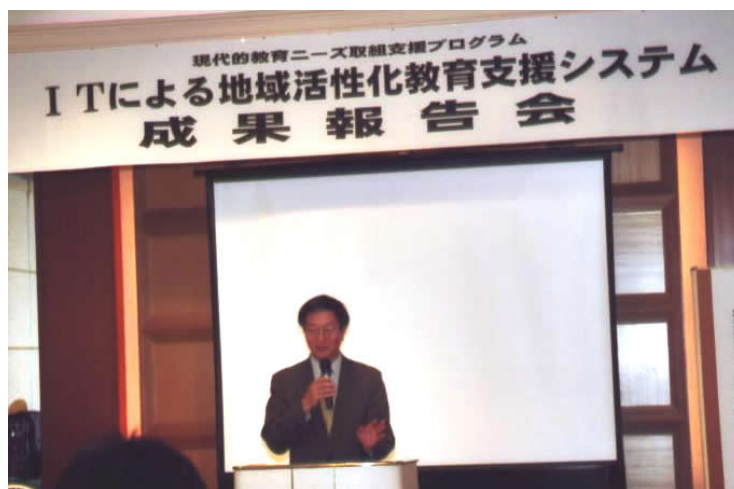
文部科学省から平成16年度に採択を受けた「ITによる地域活性化教育支援システム(副題 e-学生・技術者・市民とのまちづくり支援プログラム)事業も3年目(最終年度)になり、その成果報告会を去る3月2日(金)に北見東急インで実施しました。

最初に常本学長(事業推進代表者)の挨拶の後、北海道大学情報基盤センター長 山本強教授による基調講演、続いてこの事業に中心的に係わったプログラム関係者から、次の内容についての事業報告が行われました。

- (1) u-ラーニングシステム
- (2) e-資格対策支援プログラム
Java プログラマ試験、セキュリティー管理者試験、情報処理技術者試験
- (3) e-技能修得試験支援プログラム
ガス溶接・アーク溶接技能、移動式クレーン・玉掛け技能
- (4) e-生きがい創生支援プログラム
シルバー・主婦向けパソコン教室
- (5) 外部評価結果
経緯、概要、考察

なお、このプロジェクトは、学生の資格取得や地域技術者の技能向上を支援することが目的で行われ、特に携帯電話からもアクセスできる点が特徴の一つであり、理解度を判定しながら自己学習できるようになっています。

また、報告会には、この事業推進にあたって協力いただいた地域の教育関係者、官公庁、企業、NPO、また、一般市民の皆様の多数の参加をいただき盛況のうちに終了しました。



成果報告会で挨拶する常本学長

地域共同研究センターに(独)科学技術振興機構 (JST) 研究成果活用プラザ北海道「医食ゲノミクス研究室・北見分室」設置

(研究協力課)

平成 19 年 3 月 9 日 (金) に地域共同研究センター内への(独)科学技術振興機構(JST)研究成果活用プラザ北海道「医食ゲノミクス研究室・北見分室」の設置に伴う看板掲上式を実施しました。これは、平成 16 年度 J S T 「育成研究」に国際交流センター長 山岸喬教授の「伝統医学とバイオメディカル技術による生活改善食品の開発」研究が採択され、共同研究継続の結果、実用化に向け着実な成果を挙げていることが評価され、更なる発展の強化を図るため

地域共同研究センター内に「医食ゲノミクス研究室・北見分室」が設置されることによります。

看板上掲式には、J S T 研究成果活用プラザ北海道から佐藤完二技術参事、J S T 産学連携事業本部地域事業推進部から前田さち子プラザ事業推進課第二係長が参加され、看板上掲式記念撮影後の報道陣取材では、現在までの成果と今後の展望について、常本学長・国際交流センター長山岸教授と共に熱い思いが語られていました。



左よりJST佐藤技術参事・前田プラザ事業推進課第二係長、常本学長・山岸国際交流センター長



地域共同研究センター内の医食ゲノミクス研究室・北見分室



充実目覚ましい地域共同研究センター



報道陣の取材に応じる首脳陣

道内初の格付評価で「AA」の評価を受ける

(企画広報課)

この度本学では、実績の高い格付け機関である㈱日本格付研究所（JCR）に、民間企業等が行っている格付け評価を依頼し、その結果が

平成19年3月22日に伝達され、次のとおりの格付けを取得しました。

発行者	国立大学法人北見工業大学
格付けの対象	長期優先債務
格付け	AA
格付けの見通し	安定的

「AA」という評価は、JCRが行う20段階ある格付けの上から3番目という非常に高い評価です。「AA」は“債務履行の確実性は非常に高い”という格付であり、「安定的」は“格付けを今後見直す場合、当面変更の可能性は低い”ことを表しています。

本学が格付け評価を行った理由は以下のとおりです。

国立大学法人になって、大学の教育の質の保証などのために、認証評価、JABEEあるいは国立大学法人評価委員会の評価などが行われているが、その評価結果の位置づけなどは広く理解されていない。その点、国公私立大学等の一部が実施している格付け評価は、民間企業とも比較でき、大学の長期的安定性を示す指標として社会から理解されやすいと考えている。特に、小さな地方大学は、学生募集力、外部資金獲得

力の点で不利な条件にあり、格付け評価で高い評価が得られるかどうかは、今後の大学の経営戦略にとって重要と考えている。また、評価過程で示されるJCRの客観的な評価に基づく課題等の提示は、今後の改善目標ともなり、教職員の意識改革の上でも大きな効果が期待できると考えている。



JCRからのトップインタビューを受ける常本学長

= 日誌 =

(総務課)

2月 3日	合同企業研究セミナー（～4日）	3月 1日	教育研究評議会
5日	企画運営会議	2日	現代GP「ITによる地域活性化教育システム」成果報告会
6日	大学院博士前期課程（第2次） 入学試験（学力） 大学院博士後期課程（第2次） 入学試験（面接）	5日	教授会、研究科委員会 教育研究評議会 入学者選抜委員会
7日	大学院博士前期課程（第2次） 入学試験（面接）	6日	前期日程合格発表 留学生交流の夕べ
8日	教育研究評議会		
13日	後期定期試験（～23日） 入学試験実施委員会 入学者選抜委員会 企画運営会議	7日	教務委員会 後期日程試験監督員説明会
14日	教授会、研究科委員会 大学院博士前期課程及び大学院博士 後期課程合格発表 私費外国人留学生選抜合格発表	8日	学生委員会
20日	発明審査委員会	9日	教授会
21日	キャリア支援セミナー（就職ガイダンス）	12日	個別学力検査（後期日程）
23日	入学者選抜委員会	13日	企画運営会議
24日	学年末休業日（～3/31）	14日	学長選考会議 経営協議会、役員会
26日	企画運営会議	15日	学生表彰式
27日	入学者選抜委員会 学長主催特別講演会	16日	学位記授与式 入学者選抜委員会
28日	教務委員会 地域共同研究センター産学官連携推進員会議 メンタルヘルスサポート研修	19日	教務委員会 企画運営会議 入学者選抜委員会
		20日	教授会 後期日程合格発表
		22日	国際交流委員会
		23日	情報システム運営委員会
		26日	発明審査委員会
		30日	永年勤続者表彰式